

松本整コメント

2014. 6. 11

私としては、組織的・科学的トレーニングによって、自転車競技ナショナルチームの強化に貢献したいとの気持はいささかも変わっていませんが、契約を盾にとって総監督の地位にしがみついた気持ちは毛頭ありません。

今回の自転車競技連盟側が、契約を無視した違法なやり方を強行してきたことに対して、それに屈することは、自転車競技の世界のみならず、広くスポーツの世界に重大な悪影響を生じさせると考え、あらゆる法的措置を講じて、連盟と戦っているものです。

今回の私の行動は、自転車競技連盟における、法や契約を守る健全な組織運営を回復し、正常化するための戦いであり、私の取り組んできた改革を推進し、これを支持して頂いている方々のためにも、こうした問題提起が必要だと考えています。

裁判所の適切な御判断が出されることで、一日も早く混乱が收拾されることを望んでおります。そのような私の思いをマスコミの皆さんにもご理解頂ければ幸いです。

なお、今後、これら法的措置の中で、損害賠償請求等の措置をとっていくことになることになるかもしれませんが、その場合も、私は、それによって個人の利益を得る意思は全くありません。損害賠償金等が認められた場合には、全額をスポーツ振興のために寄附したいと考えています。